

No.12

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

ニューズレター

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance



都市と文化資源の
未来を考え、実践する
「ひじりばし
博覧会」

東京の文化資源を考える
「博覧会」の開催が実現

これまで、東京文化資源会議では多くのプロジェクトが立ち上がりました。個別地域にとどまらず、都心北東部全体のエリアに点在する豊かな文化資源にも目を広げながら、これからの東京の文化資源を考えることを目的に、7月24日、御茶ノ水にあるソラシティカンファレンスセンターにて「ひじりばし博覧会」を開催しました。

昨年の5月5日に「ソラシティでスポーツを遊ぶ」を開催したことをきっかけに、ソラシティの全面協力のもとで東京文化資源会議全体にまつわる企画として「文化資源の展覧会」が立ち上がり、実現することとなりました。

当初は、昨年と同じく5月5日で準備を進めていましたが、新型コロナウイルスによって延期となり、日を改め直し7月24日での開催となりました。しかし、5月以降も感染者

は増大する傾向の中、本来であれば終日かけてソラシティ施設内や屋外による展示やアクティビティを用意していましたが、感染拡大防止の観点から、急遽、オンラインを主軸としたイベントへと切り替えました。結果、パネリストなどゲストや一部の観覧者はリアル中心に集まりながら、「ハイブリッド型」での開催となりました。

**吉見幹事長の基調講演
ポストコロナ時代の
都市と文化資源の未来とは**

ひじりばし博覧会の開幕として、吉見幹事長による基調講演「ポストコロナ日本を甦らせる全国文化創生区2030ビジョンー2020年からの再出発ー」を行いました。移動と交流の自由によって都市の創造性が育まれてきたグローバル社会において、戦後復興1964年の東京オリンピックによって東京という都市の構造を作り上げ、「より速く、より高く、より強い東京」が築き上げられてきました。しかし、未だ64年からの価値転換が出来なかったことが、日本社会に大きな影響を与えていると吉見幹事長は話します。これからの社会は「成長から成熟」へ、そのためには「より愉しく、よりしなやかに、より永く、再利用する」循環型の社会こそ、成熟社会のあり

ようだと語りま

す。

地域に根ざす文化をもとに持続可能な都市のモデルをつ

くるための新たな時間軸を挿

入し、未来／グローバルと伝統／ローカルのリバランスを整え、循環する旨味(知的創造人材の連携流動)、

地球的風通し(オンライン環境の支援体制)、時間のメリハリ(1年12

ヶ月の総合的マネジメント)を柱とする

ことこそ、ポストコロナ時代のローカル／グローバル社会を実現す

るとお話いただきました(吉見幹事

長の基調講演の様子は、東京文化資源

会議サイト内にて閲覧できます)。

基調講演後は、東京文化資源会議

の年次総会を開催。初のオンライン

開催ながら、多くの方たちにご参加

いただき、これまでの東京文化資源

会議の活動、そして今年度や今後の

方針についてご報告させていただきました。

また、

各地のまちづくりと連携議論

秋葉原の未来を語る5時間

各PTTの個性的な催しも

午後からは、各PTTによるフォー

ラムやシンポジウムなどを開催。感

染拡大防止のため、屋外や接

触や密を伴う企画は中止

とせざるをえなかった

のはとても残念でした。

一方、感染防止対策な

ど最新の注意を払いな



がら、オンライン

主軸による開

催に切り替え、開

催の準備を行ったこ

とで、新たなイベン

構築の経験を積むことが

できました。各PTTメン

バーらによる

迅速で柔軟な対応で実現できた企画

でもあります。

各PTTにおいても、これからの文

化資源を考えるための活発な議論や

意見交換が重ねられました。TTT

構想では、東京再生と新たな都市文

化を育む鉄道やトラムの可能性につ

いて、有識者の方々と議論しました。

上野スクエア構想による「密に交

わる空間」をめぐるラウンドテー

ブル」では、現状の飲食店の課題を共

有するにとどまらず、他者との親睦

や関係構築における密接性が生み出

す価値についても議論しました。

リノベ研では「東京歴史文化まち

づくり連携キックオフ宣言」を開催。

各地のまちづくり事業者らと歴史文

化資源のある街並みを保全・活用し

ていくかを議論しました。谷根千

だけにとどまらず、全国各地に地域資

源のある街並みは存在します。全国

のまちづくり事業者と連携を図りな

がら、地域資源の保全活用を展開し

政策提言を行うことは、ますます重

要になってくることでしょう。

省による道路占有許可の規制緩和が

行われたことで、まち整備のルール

や今後のまちづくりのあり方に

も大きな影響を及ぼしていま

す。密にならず地域の賑わい

をつくり出すにはどうすれば

よいか、様々な立場の人たち

と考えるをつくっていきたく

と思っています。

広域秋葉原作戦会議では、

オンライン主軸による放送

局を開設し、コロナ禍を受けた

これからの秋葉原について議論を

重ねました。オンラインを主軸に

しながら密にならず、それでいて議

論を重ねる場を作ること、今後の

一つの方法論として確立してきそ

うです。

上野公園を中心に、新たなナイト

ライフや地域資源の連携を図る「上

野ナイトパークコンソーシアム」の

設立発表と、慶應義塾大学教授の上

山先生や文化庁の杉浦審議会らと

もに、今後の上野公園のパークマネ

ジメントのあり方について議論を行

いました。コロナ禍は美術館にも

大きな影響を与えました。バーチャ

ルツアーなどリアルとデジタルを融

合せながら、新たな文化資源の活

用が期待されていることが確認でき

ました。

**文化資源と都市の未来を考える
定期開催に向けた一歩を**

来年こそは、ソラシティ施設内の
全面活用を展開してまいりたいと思



います。トークのみならず、

ワークショップ、展示、

体験コーナーなど、文化

資源にまつわる様々な物

事は、五感すべてを活用

して、考え、触れて、行動

することから始まるはずで

ぜひ、ご期待ください。

また、今回のような「ハイブリッ

ド型」のイベント開催も含めた新た

な形も模索してまいります。今後は、

オンラインを中心としたイベントを

各PTTや事務局も展開を検討してい

ます。時代の変化に呼应しながら、

これからの都市と文化の未来を考え

新たな都市像を議論し、実践してい

きながら、未来を創造するために引

き続き活動をしてまいります。

(記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木渉)



染拡大防止のため、屋外や接

触や密を伴う企画は中止

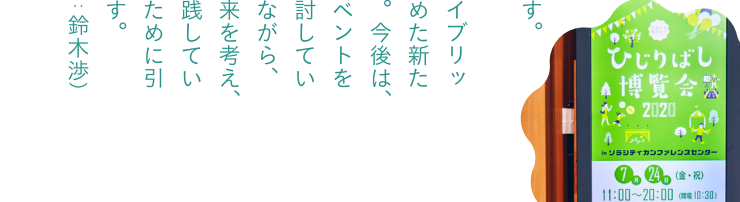
とせざるをえなかった

のはとても残念でした。

一方、感染防止対策な

ど最新の注意を払いな

ります。



東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。



コロナ後の 三密回避を目的に 新たな街路活用

上野スクエア構想を起点に、不忍池のほとり・池之端仲町界隈で地元ビルオーナーの方々と推進している「アーツ&スナック運動」は、新型コロナウイルスの影響もありましたが、いわゆる「夜の街」の日常を見つめた精力的な活動が続いています。6月にはトーキョートラムタウン構想を進める東京都市大学の研究室と、アーツ&スナック運動を進める東京都市大学デザイン研究室で「オンライン発表&討論会―大学生と考える上野の都市デザイン2題―」と題した横断的な議論を敢行しました。ひじりばし博覧会では、『密に交わる空間』をめぐってラウンドテーブル（上野） 飲食街・繁華街で起きていること、起きうること」と題し、地元飲食店の方々の生の声を交えたオンライン座談会を開催し、コロナ禍における飲食店の影響や課題、今後について議論いたしました。コロナ禍による三密回避と

もに街中の賑わい作りのこれらに向け、街中の実践としてメインストリート・池之端仲町通りのアイデンティティである街路灯に注目。街路灯を外飲みもできるスタンドテーブルに変えてしまう「ガイトウスタンド」プロジェクトを始動しています。

国交省から出された三密回避対策を目的に、テラス席利用のための道路占用緩和基準を受け、8月末に道路占用許可を取得、9月中旬から設置してまいります（車両通行止めとなる17時以降）。秋以降、このガイトウスタンドをきっかけに、上野スクエア構想でも重要ポイントとして掲げていた街路空間の積極的活用を、地元の皆様とともに推進してまいります。引き続きご注目ください。

（プロジェクトHP： <https://www.ikenohata-nakacho.com/>）

歴史文化まちづくり 各地の団体らと 横連携に向けた動き

リノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）では、2019年夏に国への政策提言、神保町や谷中での地域に根ざした歴史文化まちづくりの検討などを中心とする、これまでの活動を報告書としてとりまとめた上で、新たな検討フェーズをどのように迎えるのが良いか、幹事会や研究会などでこれまで検討を重ねてきました。今年度のリノベ研では、東京都区部の各地区で進められてい

る歴史文化まちづくりの横連携を強化することに注力し、各地区が直面している様々な課題を共有する中から共通の課題を浮かび上がらせ、その課題解決をもとに連携・協働に向けて検討していくことを活動方針に定めました。

その第一歩とすべく、ひじりばし博覧会では「東京歴史文化まちづくり連携キックオフ宣言」と題するオンラインフォーラムを開催。当日は14団体に及び各地区のまちづくりを牽引する方々にご参加いただき、それぞれの状況や展望や課題、また現下のコロナ禍における悩みや取り組みまで、幅広く意見・情報を交換しながら、お互いの尊重と緩やかな連携のなかで、東京の歴史文化まちづくりをさらに推し進めようというスタンスを改めて確認・共有することができました。

今後は、各地区が抱える課題から共通する課題を見つけ出し、その解決策を検討していくことと考えています。リノベ研では、横連携の事務局的な役割を担いつつ、東京の歴史文化まちづくりを支える提案の検討等を進めていく予定です。

新たな試み オンライン主軸 広域秋葉原放送局

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、コロナ禍を受けてオンラインの活動を増やしています。5月20日にはYouTubeにて



「秋葉原応援緊急特番 #SaveYourAKIBA」を放送し、コロナ禍の秋葉原がどのような状況にあるのか、新型コロナウイルスを契機に、秋葉原が今後どのような街になっていくかを議論しました。

ひじりばし博覧会においても「ひじりばし放送局 Greater Akihaba」秋葉原の未来を語る鼎談ほぼ5本スペシャル」と題して、プロジェクトメンバーや秋葉原の街に関わるステークホルダーを集め、これまでの活動をもとに秋葉原の未来について活発な議論を行いました。

こうした活動の蓄積を受け、8月からは月に2回を月毎に定期放送を行う「広域秋葉原放送局（ABS）」を開始しています。これは、秋葉原に携わる人々が何を考え、街にどのように関わっているのかを本人の「語り」として取り上げることで、秋葉原についての新たな議論の喚起やコミュニティアーカイブの作成を目的としています。

アフター/ウィズコロナ時代におけるニューノーマルも意識しながら、広域秋葉原作戦会議プロジェクトとしてできることを検討し続けていきます。

崖東夜話に向けて 新たな地図づくり 書籍とも連動企画

地図ファアプロジェクトでは、10月27日に開催される「崖東夜話」に合わせて、古地図による散歩アプリ「UPTOKYOぶらり」に新しいぶらりを用意しました（詳細はこちら <https://m.stroy.com/jp/tokyo/>）。

崖東夜話にご協力いただく6つの施設やお茶の水・湯島・上野地域にまつわる情報を、江戸から昭和にわたる複数の地図にて展開いたします。

現在、6施設に関する基本情報や載せた社教会堂編、崖東夜話にあわせて出版準備中の書籍から専門家の先生方の論考や施設の方々のインタビューなど、深い思索を抜粋した精神文化編の2種類のぶらりを準備中です。後者は新刊書に先駆けてその一部を公開するもので、書籍とウェブサービスとの連携の先駆けとなるものです。ぶらり片手に、ぜひ、東京の文化資源のある街並みを歩いてみてください。ぜひお楽しみください。



ウィズコロナ時代 改めて問われる スポーツの意味とは

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、ひじりばし博覧

会において「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、開催中止いたしました。当プロジェクトでは、同博覧会の5月開催が延期されたあと、「ソーシャルディスタンスをなるべく保ったままできるスポーツを工夫して作り、実践してみよう」というテーマのもと、メンバーや一橋大学の学生とともに企画内容を改めて練り直し、準備にあたってきました。

しかし、当日のような方が参加するか予想できないなか、「スポーツを実施する」という企画の都合上、故意でなくとも身体的接触が生じたり、つい大声をあげてしまったりというすべてを未然に防ぐことは難しいことが推測され、7月に入り感染経路がわからない陽性者が増えている状況のなか、感染拡大に寄与してしまうリスクを取るべきではないと考え、大変残念ではありましたが中止の判断をいたしました。

新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるうなか、人々は今までにない触れ方でコンタクトを取ることを迫られています。当プロジェクトにおいても、「スポーツ」がなぜ必要なのか、「スポーツ」を通して私たちが得ているものは何か、という根源的な問いに対して向き合う機会となっています。

会話を重ね、歴史や他の実践に学ぶことで、ウィズコロナ時代における新しいアイデアや実践に取り組んでいきたいと考えています。

6施設共同企画 「崖東夜話」 ついに開催

湯島・神田・上野界隈に縁のある文化・宗教施設と大学関係者が、新しい精神性と宗教の役割について考察し、相互理解を深めるために、4年前に湯島神田上野社教会堂プロジェクトを立ち上げました。その一つとして、6施設による共同イベント「崖東夜話」(がいとやわ)を10月27日(火)夜に開催します。その名のとおり、武蔵野台地の崖の東に位置する社寺や教会、聖堂の諸施設で同時多発的に行う一晩の催しです。

プログラムは以下の通りです。第1部は文化・宗教施設の方々による「音」にまつわる講話や演奏、第2部は「魂のかたち」をテーマにした専門家、信仰実践者、文化・宗教施設の方々による鼎談、第3部は「崖東夜話を語る」と題した第1、2部のラップアップ的なラウンドテーブルの3部構成です。

会場は当研究会メンバーでもある寛永寺、アッサラームファンデーション、湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂の6施設で、イベントに合わせ

て特別に夜間に開放いただき、日没後の18時半から23時まで各施設で各プログラムを並行して進めます。当会議内外の様々な方のご協力を得て開催を実現することができました。

年始や祭事を除くと、私たちの暮らしに身近なようで遠い存在になりつつもある文化・宗教施設ですが、夜の静寂のなかに展開する多才な語り部たちの活発な対話を通して、都市文化の精神的拠点である諸施設の本質的な役割を少しでも体感していただくことができれば幸いです。詳細は「崖東夜話」ウェブサイト(www.gaitou-yawa.org)をご覧ください。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、募集人数を大幅に縮小しての開催となります。「崖東夜話」の開催に合わせて関連書籍を動草書房より刊行予定です。どうぞご期待ください。

公園の 夜間活用促進へ 上野ナイトパーク コンソーシアムの 設立

上野公園及びその周辺地域における文化資源の発掘・保全・

活用、特にほとんど活用されていない夜間の公園及び周辺地域の文化資源の活用を重点をおいた「上野ナイトパーク構想」を発足させ、会議やシンポジウムを開催してきました。構想の具文化のためのモデル事業として文化庁による日本博の助成金をもとにイベントを開催することとなりました。

あいにく、イベント自体は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期せざるを得なかったものの、東京都や公園管理事務所、上野公園内のミュージアム各施設との協力関係を構築することができました。引き続き、構想に基づく具体的な取り組みを推進していき、将来的には上野公園の公園管理組織の設置を見据えるため、民間主導による各分野の専門事業者・専門職団体等による組織体である「上野ナイトパークコンソーシアム」を設置し、ひじりばし博覧会にて設置報告会を開催いたしました。

今後は、上野ナイトパークコンソーシアムによる活動を活性化させながら、夜間における上野公園および在園文化施設の入場者の増加、周辺施設との交流人口の増加促進や、各文化施設等のユニークベニューにおける利活用の発掘・提案等による文化的・経済的価値の創出、および事業創造を行ってまいります。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大は文化の在り方・接し方も大きく変えました。東京文化資源会議の活動は「文化」を都市を構成するもつとも重要な要素の一つとして、それをどのように生み、育み、活かしていくかを実践するものです。これまでの文化の多くは人と人との密なコミュニケーションによって生まれてきました。文化のあり方について会議が担う役割はより一層重要となってきたと感じます。(陸)

年明けからの感染症がここまで大きな影響になると、誰が思っていたでしょうか。それだけ、人が「移動」し「交流」することで社会が成り立っていたのだと実感します。そして、非接触到に慣れつつある私たちですが、改めて、文化は人の生活の基盤であることを実感したに違いありません。新たな時代、新たな社会のあり方をともに考えるなかにおいて、都市や文化のあり方について、今までとは違った形をこれから議論していきたいですね。(江)

[ティーチャ]東京文化資源会議ニューズレター No.12

読み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：波井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スタート出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2020年9月30日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/